

む ゆう じゆ
無 憂 樹

※題字は前住職・教修の筆

発行

浄土真宗 本願寺派(お西)
圓融山 信行寺

〒662-0921 西宮市用海町1-22

TEL 0798-22-2282



写真：白蓮華

蓮華は仏教において象徴的な華です。特に「南無阿弥陀仏」と申す念仏者は白蓮華に譬えられます。蓮華はきれいな水辺には咲かず、むしろ泥沼にこそ華を咲かせるのです。泥沼に咲きながら泥に染まらず、かえって泥沼を美しく飾っていく純白の蓮華は、泥のような煩惱をもつ私を抱きとめる仏さまと、その教えを表すのにふさわしい喩えといえます。

今月の掲示板

人は幸せだから感謝するのではない。
感謝するから幸せになれる。

～出典：鍵山秀三郎著『掃除道』～



住職による法話の様子

秋季彼岸会

講師

当院住職

四 夷 法 顕

「彼岸^{ひがん}」とは、「彼の岸^{かきし}」と読むように、「此岸^{しがん}」(此^この岸^{きし})に対応する言葉です。「此岸」とは、私たちがいま現実^{じつげん}に生きている、苦悩に満ちた「迷いの世界」のことです。一方、その対岸にある「彼岸」は、仏さまの安らぎの境界である「悟りの世界」であり、浄土真宗では悟りの世界を阿弥陀如来の「お浄土」と味わせていただきます。忙しさに追われて仏法と疎遠になっていた私が、大切な方との別れをご縁とする中で、阿弥陀さまのお浄土を想い、わが人生を考え、仏縁を深める法座が彼岸会です。

次回は3月の春季彼岸会です。日程は改めてご案内いたします。



彼岸花



赤井智顕師による法話の様子



【国宝 親鸞聖人影像（安城御影副本）】
〔室町時代、京都・西本願寺〕

親鸞聖人報恩講

講師

鳴尾善教寺

赤井智顕師

ほうおんこう

報恩講とは、浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の祥月命日です。親鸞聖人は一二六三年一月十六日（旧暦弘長二年十一月二十八日）に九十歳で亡くなられました。本山・西本願寺では、毎年一月九日～十六日まで報恩講が行われ、浄土真宗にとって最も大切にされている行事です。

今年の当院報恩講は平成三十年十一月四日（日）の十四時～十六時に決まりました。日が近づいてきましたら、改めてご案内いたします。

仏教入門講座

清 第一回

「仏教ってなに？」

清 第二回

「仏教成立の背景」

～ 古代インドの宗教思想 ～



仏教入門講座の様子。多くの方々が受講してくださっています。

第三回日程 一月二十七日（土） 十四時～十六時

テーマ「お釈迦さまの誕生」

いよいよ、お釈迦さまのご生涯に入ります。第三回テーマは「お釈迦さまの誕生」です。お釈迦さまは今からおよそ二五〇〇年前に、インドで一国の王子としてお生まれになりました。その際の伝承等についてお話いたします。

第四回日程 二月十七日（土） 十四時～十六時

テーマ「お釈迦さまの苦悩 ～出家の理由～」

お釈迦さまは一国の王子として生まれ、なに不自由ない生活をしておりましたが、満たされることのない苦悩を抱え、二十九歳の時に出家を決意されます。そこには、私たちが一般的に幸せのステータスと考えている地位・名誉・財産に、本当の幸せはないことが暗示されています。仏教で考える「本当の幸せ」とは一体どのようなものなのでしょう。第四回目ではその点についてお話いたします。

※毎回内容に入る前に、前回テーマの復習をします。どなたでもお越しいただけますので、皆さまのご参加をお待ちしています。

お申込み・参加費・お供え等は不要です。筆記用具・お念珠・お経本・門徒式章（お持ちの方）をご持参ください。

やさしく学ぶ

信行寺 仏教入門講座

平素より、信行寺護持にお力添えを賜り、誠に有難うございます。

この度、「やさしく学ぶ 信行寺仏教入門講座」と題し、通年で仏教講座を開催させていただくことになりました。講座はDVDなども用いて、なるべくわかりやすく進めていく予定です。今回のテーマは、「お釈迦さまの生涯と思想」と設定いたしました。当山信行寺は、親鸞聖人を宗祖とする「浄土真宗」という仏教の一宗派ですが、まずはお釈迦さまによって開かれた「仏教」そのものの思想を、お釈迦さまのご生涯とあわせてお話しいたします。

来期以降は、お釈迦さまによってインドで開かれた仏教がどのように日本へ伝わり、そして親鸞聖人によって開かれた「浄土真宗」とは、どのような教えなのかについてもお話しさせていただく予定です。連続講座ですが、1 回だけのご参加でも大歓迎です。

日程と内容については以下の通りです。興味・関心をもっていただければ、どなたさまもお気軽にお越しください。

合 掌

☆テーマ：「お釈迦さまの生涯と思想」

講 師：四夷 法顕（当院住職）

※内容については、変更になる場合もありますのでご了承ください。

場 所：信行寺本堂

対 象：どなたでも（1 回のみ参加も可能です）

参加費：不要（お布施やお供えの受付もしておりませんので、ご了承ください）

申込み：不要

持ち物：筆記用具・お念珠・お経本・門徒式章（お持ちの方のみ）



回数	日程	時間	テーマ	内 容
第 1 回	平成29年 10/22(日)	14～16時	仏教ってなに？	私たちににとって身近な「仏教」とは、どのようなものなのでしょう。そもそもどこから考えてみたいと思います。
第 2 回	12/10(日)	14～16時	仏教成立の背景 ～古代インドの宗教思想～	仏教の成立には、当時のインドにおける宗教思想が大きく影響しています。
第 3 回	平成30年 1/27(土)	14～16時	お釈迦さまの誕生	仏教を開かれたお釈迦さまは、今からおよそ2500年前のインドに誕生されました。
第 4 回	2/17(土)	14～16時	お釈迦さまの苦悩 ～出家の理由～	お釈迦さまは29歳で出家します。その背景には、深い悩みがありました。
第 5 回	4月	14～16時	お釈迦さまの修行	お釈迦さまが行った修行の内容とは、どのようなものであったのかをお話しいたします。
第 6 回	6月	14～16時	お釈迦さまのさとり	出家をしてから6年後、お釈迦さまはついにさとりを開かれます。さとりの内容とは一体どのようなものなのでしょう。
第 7 回	7月	14～16時	初めてのお説教 ～初転法輪～	さとりを開かれたお釈迦さまは、初めてお説教をします。相手はかつて修行を共にした、5人の出家者でした。
第 8 回	8月	14～16時	お説教の内容①	お説教の具体的内容です。まずは仏教の中心的思想である、「縁起」についてお話しいたします。
第 9 回	10月	14～16時	お説教の内容②	お釈迦さまが最初にしたお説教といわれる、「四諦八正道」についてお話しいたします。
第10回	12月	14～16時	教団の形成	お釈迦さまの教えに惹かれ、教団はどんどん拡大していきます。その際、お釈迦さまは非常に合理的な組織運営を行います。
第11回	平成31年 1月	14～16時	お釈迦さまの晩年 ～最後の教え～	教えを説き続けたお釈迦さまですが、やがて亡くなられる時を迎えます。晩年の様子、最後に説かれた教えはどのようなものだったのでしょうか。
第12回	2月	14～16時	お経の成立	お釈迦さまの亡き後、教えはお弟子たちによって語られ、「経典」としてまとめられます。それが今日の日本に伝わっています。

平成 30 年 4 月以降の開催日は、改めてご案内いたします。

※ 3、5、9、11 月は法要のため休講です。法要にご参詣ください。

ひとくち法話

仏心とは大慈悲これなり

『仏説観無量寿經』に阿弥陀如来のお
ころについて、

仏心とは大慈悲これなり

と、説かれています。「慈悲」とは、一
般に「痛みを共感するころ」と言われ
ますが、これはよく親心に譬えられ、社
会の価値観とは異なったころであると
いえます。

大相撲に、稀勢の里という横綱がおら
れます。稀勢の里関が横綱に昇進した際、
この方のお父さんが、ある新聞記者に対
して手紙を書いていました。そこには、「息
子は横綱に昇進して気の毒だ」と書かれ
ているのです。みんなの憧れである横綱
になったというのに、なぜ「気の毒」な
のでしょうか。

稀勢の里関の本名は萩原寛（はぎわ
らゆたか）さんといっています。寛さんは
昔から野球少年で、中学時代はエースで
四番でした。また、寛さんは小さい頃か
ら相撲も好きで、いつも大相撲のテレ
ビ中継に夢中になっていました。そして、
中学卒業後、野球が相撲かどちらの道に
進むか悩み、昔から好きだった相撲の
道に進んでいくのです。そうすると、相
撲の世界でも順調に番付を上げていくの

ですが、大関の時に大きな壁に当たりま
す。周囲から期待されながらも、いつも
大事な取り組みで勝つことが出来ず、な
かなか横綱に昇進することが出来ません
でした。そのとき、世間の人たちは「もつ
と頑張らないとダメじゃないか」と声を
かけます。このような状況にお父さんは、

私としては大関のままでケガなく
病気になる体づくりを第一に
考え、好きな相撲を長くやっても
らうのが念願でした。

と、自身の思いを手紙に述べています。
続けて、

しかし、それではお世話になった
人、世間が許してはくれません。

（中略）さて、これからが大変で
す。今まで以上に稽古をこなし、
自分を律し、より勉強して名実と
もに誰からも模範になるような立
派な人間になるよう努力しなけれ
ばなりません。そういった意味で
「おめでとう」と言うよりは、これ
からはなお一層頑張らなきゃいけ
ないと思うと「気の毒になった」
というのが本音です。

このお父さんの言葉は、社会の価値観

とは全く異なります。わが子の気持ちを
おもんばかり、痛みを共感する親心、そ
こに理由なんてありません。「わが子」
だからこそなのです。そして稀勢の里関
も、お父さんのような存在がおられるか
らこそ、きびしい世界を戦うことができ
るのでないでしょうか。

「仏心とは大慈悲これなり」と示され
るのが阿弥陀さまのおころです。阿弥
陀さまは私がつらい時、悲しい時は決し
て「頑張れ」とは仰いけません。私をひと
り子のように思い、「つらいね、悲しいね」
と、共に涙を流してくださっているのだ
です。

阿弥陀さまのお慈悲は、いまここに「南
無阿弥陀仏」となって届いています。「南
無阿弥陀仏」とは阿弥陀さまがこの私に、
「どんなにつらく、悲しくともあなたに
寄り添う仏がいるから、安心しなさい」
と、喚びかけてくださっているお言葉な
のです。

トップニュース

伝灯奉告法要が円成

10期80日間 5月31日にご満座

第25代専如ご門主が、浄土真宗のみ教え（法灯）を継承されたことを阿彌陀如来と親鸞聖人の御前に奉告され、そのみ教えが広く伝わることを願い、昨年10月1日から始まった「伝灯奉告法要」。10期80日間の日程で行われ、ご満座（最終）の法要が5月31日、つがななくつとめられ、円成となった。ご満座の法要後には、ご門主が「ご消息」を發布され（写真）、念仏者の生き方をあらためてお示しになられた。

（ご満座の様子は次回で詳報予定）



ご門主「ご消息」發布される

伝灯奉告法要御満座の消息

昨年の十月一日よりお勤めしてまいりました伝灯奉告法要は、本日ご満座をお迎えいたしました。十期八十日間にお勤めした法要を厳粛盛大にお勤めすることができましたことは、仏祖のお導きと親鸞聖人のご遺徳、また代々法灯を伝えてこられた歴代宗主のご教化によることば申しすまでもなく、日本全国のみなさま、全世界に広がる有縁の方々の熱心なご支援のたまものと、まことに有り難く思います。

昨年の熊本地震から一年を経過し、甚大な被害をもたらした東日本大震災から六年が過ぎました。改めておごなりのなされた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。どれほど時間が経過しても心の傷は癒されることなく、深い痛みを感じてお勤めの方にも多くおられるでしょう。なかでも、原子力発電所の事故による放射性物質の拡散によって、今なお故郷に帰ることができず、不自由な生活を余儀なくされている方々が多くおられます。思うままに電力を消費する便利で豊かな生活を追求するあまり、一部の方々に過剰な現実を強いるという現代社会の矛盾の一つが、露わになったということが出来ます。

自分さえ良ければ他は良くなってもよいという私たちの心にひそむ自己中心性は、時として表に現れます。このような凡愚の身の私たちはありますが、ご本願に出遇い、阿彌陀如来のお慈悲に救われ、決して捨てられないことのない身ともなっています。そして、その大きな力に包まれているという安心感は、日々の生活を支え、社会のための活動を可能にする原動力となるでしょう。

凡夫の身であることを忘れた傲慢な思いが眠っているのは当然ですが、凡夫だから何もできないという無力な姿勢も、親鸞聖人のみ教えとは異なるものです。即如前門主の「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要御満座を機縁として「新たな始まり」を期する消息」には、

凡夫の身でなすことは不十分不完全であると自覚しつつ、それでも「世のなか安穏なれ、仏法ひろまれ」と、精一杯努力させていたなまじゅう。

と記されています。このように教示された生き方が念仏者にふさわしい歩みであり、親鸞聖人のお心になつたものであるといたしたいと思えます。このことは、ご法要初日に「念仏者の生き方」として詳しく述べさせていただきました。

今、宗門が十年間にお勤めした「宗門総合振興計画」の取り組みを進めておりますが、来る二〇二二（平成三十五）年には宗門誕生八百五十年、そして、その翌年には立教開宗八百周年という記念すべき年をお迎えいたします。

改めて申すまでもなく、その慶讃のご法要に向けたこれらの生活においても、私たち一人ひとりが真実信心をいたし、お慈悲の有り難き尊さを人々に止しくわかりやすくお伝えすることが基本です。そして同時に、仏さまのような執われのない完全に清らかな行いのできることも、それだけの場で念仏者の生き方を自覚し、精一杯努めさせていたことが大切です。

み教えを生かされ、み教えをひろめ、さらに自他ともに心安らぐ社会を実現するため、これらも共に精進させていきたいと思います。

平成二十九年
二〇一七年

五月三十一日

熊公門主 釋 専如

現代に響く親鸞聖人の教え

はじめて仏教・浄土真宗を学ぶ人へ



65歳からの仏教

本願寺出版社 編
四六判/176頁 本体1,200円+税



13歳からの仏教

龍谷総合学園 編
四六判/192頁 本体1,200円+税



浄土真宗 はじめの一步

森田真円/釈敬宗
B5判/76頁 本体1,200円+税



高校生からの仏教入門

小池秀章
A5判/220頁 本体1,000円+税



新・仏事のイロハ

末本弘然
B6判/168頁 本体600円+税



親鸞聖人 -その教えと生涯に学ぶ-

千葉東隆/徳永道雄
四六判/238頁 本体1,000円+税



大きな字の歎異抄

原文・現代語訳 付 横貫昌 解説
A5判/196頁 本体750円+税



漫画 親鸞さま

岡橋敬栄 作/広中達次 画
A5判/228頁 本体1,000円+税



浄土真宗必携 み教えと歩む

浄土真宗必携編集委員会 編
B6判/416頁 本体600円+税



拝読 浄土真宗のみ教え

『拝読浄土真宗のみ教え』編集委員会 編
A5判/54頁 本体300円+税

【お問い合わせ】 浄土真宗本願寺派 本願寺出版社 TEL 075-371-4171

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル FAX075-341-7753

平成三十年度 年忌表

一周忌	： 平成二十九年 往生
三回忌	： 平成二十八年 往生
七回忌	： 平成二十四年 往生
十三回忌	： 平成十八年 往生
十七回忌	： 平成十四年 往生
(二十三回忌)	： (平成八年 往生)
二十五回忌	： 平成六年 往生
(二十七回忌)	： (平成四年 往生)
三十三回忌	： 昭和六十一年 往生
五十回忌	： 昭和四十四年 往生
百回忌	： 大正八年 往生

◇ 過去帳をご確認の上、ご希望の日時はお早めにご相談ください。

ご家庭で回覧し、として保存くだされば幸いです。